

加藤拉致問題担当大臣挨拶 (国民大集会)

平成28年9月17日(土)14:00～17:00
於:砂防会館別館1F シェーンバツハ・サボー

- 家族会、救う会、拉致議連、知事の会、地方議会全国協議会主催の国民大集会開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。
- 初めての日朝首脳会談が行われてから14年目の9月17日を迎えました。また、政府が確認している最初の拉致被害者である久米裕(くめ ゆたか)さんが拉致されてから(1977年9月19日)、明後日で39年の歳月が流れようとしています。
- 北朝鮮は、一昨年7月に全ての日本人に関する調査を行う特別調査委員会を設置し、調査を開始しましたが、本日に至るまで、被害者の方々の帰国はもとより、帰国に向けた道筋も見えてこないことは誠に遺憾です。
- 北朝鮮で過酷な状況に置かれ、未だ帰国を果たせない被害者の方々、そして、その帰国を切なる思いで待ち続ける御家族の方々にとり、このあまりにも長い年月が、いかに苦しみと悲しみに満ちたものであるかに思いを致す時、申し上げる言葉もありません。
- 私は、本日、拉致問題の担当大臣として、一刻の猶予も許され

ないとの切実なる切迫感と断固たる使命感の下、全ての拉致被害者の一日も早い帰国を実現するとの決意を新たにしています。同時に、この場を借りて、北朝鮮の指導部に対し、「拉致問題の解決なくして、北朝鮮はその未来を描くことが出来ない」という安倍総理の言葉の真意について、しっかり理解し、一日も早い全ての拉致被害者の帰国を実現させるよう、強く求めるものであります。

- 先ほど安倍総理が述べられたとおり、我が国は、一貫して日朝平壤宣言の精神を堅持しています。特に、拉致問題は安倍内閣の最重要課題であり、拉致問題の解決なくして日朝関係の改善はありません。北朝鮮は、御家族や関係者を離間させたり、虚偽の情報を流す等して拉致問題の風化を図るいかなる策動も一切通用しないこと、全ての被害者の帰国を望む日本国民の総意は何かあっても変わることはないことを理解すべきです。
- これまでも、安否不明被害者についての情報収集・分析活動を進めてきました。「死亡」、「未入境」というこれまでの北朝鮮側の説明は一切受け入れられません。北朝鮮側がそうした説明を繰り返すのであれば、徒に時間が経過するだけで、北朝鮮には如何なる利益ももたらしません。北朝鮮は、もはや被害者を隠蔽して問題の終息を図ることなく、真相を明らかにするとともに、すべての被害者を直ちに帰国させるよう強く求めます。
- 逆に、我が国としては、「対話と圧力」、「行動対行動」の原則に従って、被害者の一日も早い帰国の実現に向けあらゆる施策を

講じていくとの決意をもって、当たってまいります。北朝鮮には、国際社会の声に耳を傾けることなく孤立化の道を進むのか、拉致、核、ミサイルといった諸懸案の解決に誠実に対応して平和と繁栄の道を進むのか、判断を迫ってまいります。

- 本日、私は安倍総理とともに御家族の皆様と懇談する機会を得ました。お伺いした御家族の思いをしっかりと胸に刻み、また、遠く北朝鮮の地で救出を待ち続けておられる被害者の方々の心情や健康状態に思いをはせ、一刻も早く、認定の有無にかかわらず全ての拉致被害者を取り戻すべく、総理とともに全力で取り組んでまいります。
- 本日の集会において、拉致問題の解決に向けた国民の熱い思いを一致団結して示していきたいと思っております。何とぞ宜しくお願い申し上げます。

(了)